

令和5年度公共事業再評価調書

担当課名 河川海岸整備課

番号	15					
事業名	大井川河川改修事業			事業主体	静岡県	
箇所名	一級河川 大井川			関係市町	榛原郡川根本町	
事業採択年度	令和元年度		計画期間	令和元年度～令和30年度		
用地着手年度	-		工事着手年度	令和元年度		
再評価理由※	事業採択(R1)後5年が経過					
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R3年度	R4年度	R5年度見込	計
	31,159		2,453	688	180	3,321
事業概要	<p>(1)事業目的 大井川中流域(県管理区間:神座～寸又川合流点)において、河床掘削や堤防整備などにより必要な河積の確保を図り、河川整備計画に位置付けられた5年に1回程度の発生が想定される規模の洪水を安全に流下させ、ボトルネック部であり浸水被害リスクが高く、背後地資産が多い、千頭・田代・徳山地区の浸水被害の解消を図る。</p> <p>(2)事業内容 施工延長:37.2km、施工区間:24.2k(神座)～72.0k(寸又川合流点) 河床掘削:20.3km(掘削量:7,649千m<sup>3</sup>)、堤防整備:16.9km、樋門整備:1基</p>					
事業の必要性等	<p>【視点1】(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 大井川中流域(県管理区間)の上流では国管理の長島ダムが運用されているが、本区間の流下能力が低いことから洪水時の放流量が制限され、大規模な洪水が発生した際には洪水調節機能が十分に発揮できない場合がある。このため、長島ダムの操作規則の改善に資するよう、県管理区間の流下能力の向上を求められている。</p> <p>(2)事業の投資効果 現時点(R5)の費用便益分析結果:B/C=5.26、経済的内部收益率(EIRR)=24.90% ・総便益(B)954.17億円 (被害軽減便益946.56億円、施設の残存価値7.61億円) ・総費用(C)181.41億円 (建設費162.77億円、維持管理費18.63億円)</p> <p>(3)事業の進捗状況(令和5年度末見込み) 【事業費】10.7%(3,321百万円/31,159百万円) 【事業量】施工延長7.0%(2.6km/37.2km)、掘削量7.0%(534千m<sup>3</sup>/7,649千m<sup>3</sup>) 流下能力が低く、整備効果(流下能力向上の効果)が高い区間より優先的に河床掘削を進めている。</p>					
	評価	継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>地元からの河床掘削の要請も多く、理解も得られており、また、令和7年度まで国の国土強靱化事業予算が確保される見通しであり、引き続き河川改修の計画的な進捗により、令和30年度までに完成する見込みである。</p>					
	評価	継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>民間業者の砂利採取と協力した河床掘削の実施や、掘削土を他事業の盛土材へ活用するなど、引き続きコスト縮減に努めていく。</p>					
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(継続)・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業は、大井川中流域の治水安全度を向上させ、浸水被害の解消を図るものである。費用対効果も見込まれ、地域の安全・安心に寄与するとともに、地元の期待も大きく協力的であることから、事業を継続して早期完成を図る。</p>					

## 費用便益比 算出説明書

一級河川 大井川  
今後の改修を評価したケース

(治水経済調査マニュアル(案) 国土交通省河川局 令和2年4月)

### 【総括表】

総便益(B)	[治水事業を実施しない場合の被害額] - [治水事業を実施した場合の被害額] + [施設の残存価値]	95416.9 百万円
総費用(C)	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	18140.5 百万円
費用便益費 (B/C)	[総便益(B)] / [総費用(C)]	5.26 > 1.0

※再評価におけるB/C=1.0以上…参考

### 【総便益(B)】

[治水事業を実施しない場合の被害額] - [治水事業を実施した場合の被害額] + [施設の残存価値]  
 ・評価対象期間 80年 (整備期間(30年) + 施設完成後の評価期間(50年))  
 ・年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%とし、現在価値化する

$$\begin{aligned}
 \text{総便益(B)} &= \sum \frac{\text{年平均被害軽減期待額}}{(1 + 0.04)^n} + \text{施設等残存価値} \\
 &= 94655.7 + 761.2 \\
 &= 95416.9 \quad \text{百万円}
 \end{aligned}$$

※年平均被害軽減期待額: 洪水の生起確率を被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計し算出する  
 ※整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする

### 【総費用(C)】

評価対象期間全体事業費(建設費) : 16277.1 百万円  
 維持管理(年建設費の0.5%) : 1863.4 百万円

評価対象期間: 75年

$$\begin{aligned}
 \text{総費用(C)} &= \sum \frac{\text{年建設費}}{(1 + 0.04)^n} + \sum \frac{\text{年間維持管理費}}{(1 + 0.04)^n} \\
 &= 16277.1 + 1863.4 \\
 &= 18140.5 \quad \text{百万円}
 \end{aligned}$$

令和5年度

## 公共事業再評価

番号	事業名	箇所名
11	河川改修事業	一級河川大井川

河川砂防局 河川海岸整備課

1

### 再評価実施箇所 位置図



2

# 1. 位置図



一級河川 大井川  
事業対象区間 24.2k~72.0k  
(中流七曲りブロック)

流域面積 A = 626km<sup>2</sup>

幹線流路延長 L = 58.6km



# 2. 事業の必要性

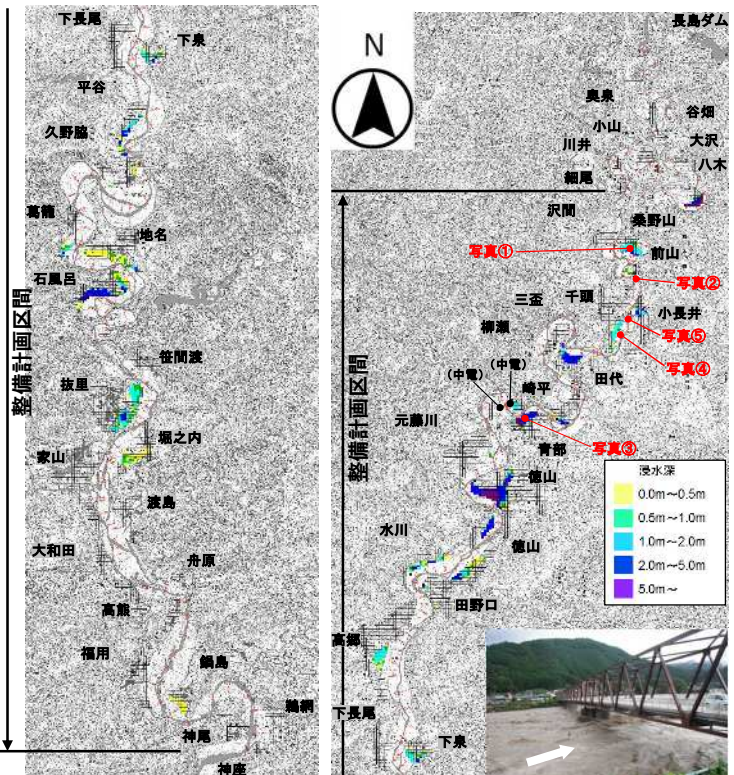
発生日月	原因	被害等
S44. 8. 4	台風7号	水害区域面積 25ha、浸水家屋 150棟
S49. 7. 7	七夕豪雨	水害区域面積 112ha、浸水家屋 326棟
S54. 10. 18	台風20号	水害区域面積 54ha、浸水家屋 62棟
S57. 8. 1	台風10号	水害区域面積 92ha、浸水家屋 204棟
S57. 9. 12	台風18号	水害区域面積 54ha、浸水家屋 1,203棟
S60. 6. 28	台風6号	水害区域面積 18ha、浸水家屋 9棟
H3. 9. 18	台風18号	水害区域面積 28ha、浸水家屋 78棟
H6. 9. 27	台風26号 秋雨前線	水害区域面積 なし、浸水家屋 なし
H12. 9. 11	台風14号 秋雨前線	水害区域面積 2ha、浸水家屋 2棟
H13. 8. 21	台風11号	水害区域面積 なし、浸水家屋 なし
H13. 9. 10	台風15号	水害区域面積 なし、浸水家屋 なし
<b>長島ダム竣工 (H14. 3)</b>		
H14. 7. 9	台風6号	水害区域面積 0.1ha、浸水家屋 5棟
H15. 8. 8	台風10号	水害区域面積 4ha、浸水家屋 1棟
H23. 8. 31	台風12号	水害区域面積 0.7ha、浸水家屋 36棟
H23. 9. 19	台風15号	水害区域面積 0.05ha、浸水家屋 1棟

※出典: H30 中部地区整備可申請(H31.3) 参考資料(治水対策編)より抜粋

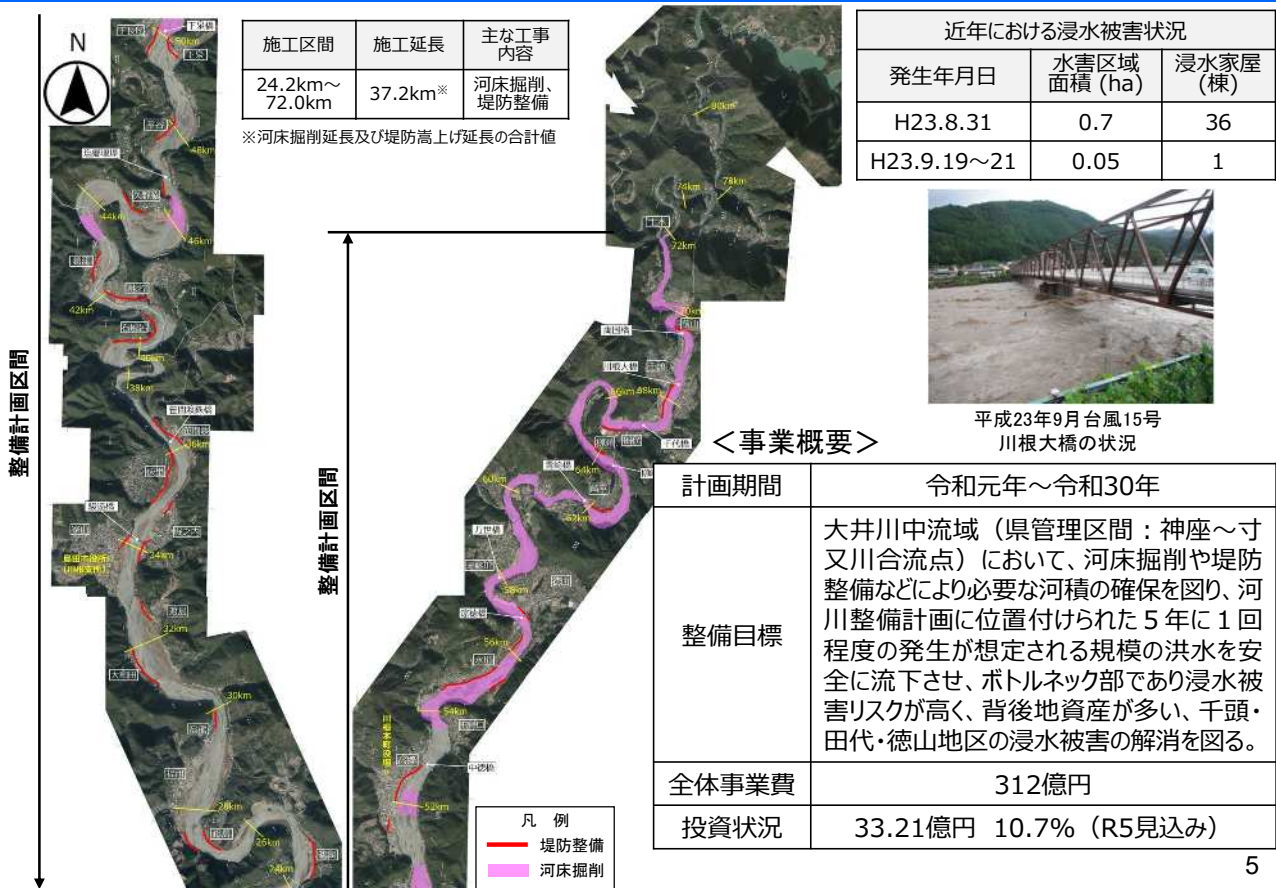


※写真出典: 大井川水系中流七曲りブロック河川整備計画 参考資料(治水対策編)より抜粋

中流七曲りブロックにおける浸水想定区域図(現況河道 年超過確率1/5規模)



### 3. 事業概要



5

### 4. 投資効果（費用便益分析：残事業評価）

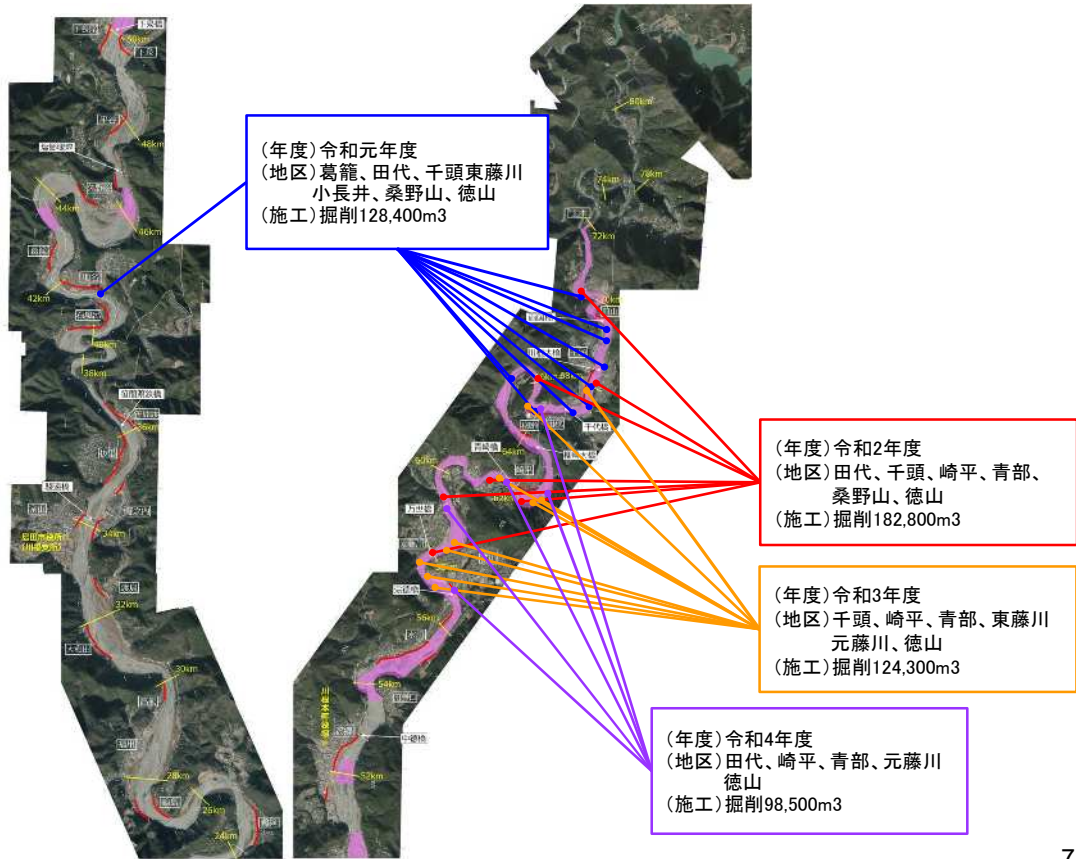
総便益(B) =	954.17 (億円)
➤被害軽減期待額	946.56 (億円)
※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、家屋・事業所における応急対策費用	
➤残存価値	7.61 (億円)
総費用(C) =	181.41 (億円)
➤建設費(現在価値化)	162.77 (億円)
➤維持管理費(現在価値化)	18.63 (億円)

※令和4年換算価値  
※文献(マニュアル):「治水経済マニュアル(案)」  
(国土交通省水管理・国土保全局、R2.4)

費用便益比(B/C) =	5.26
経済的内部収益率(EIRR) =	24.90%

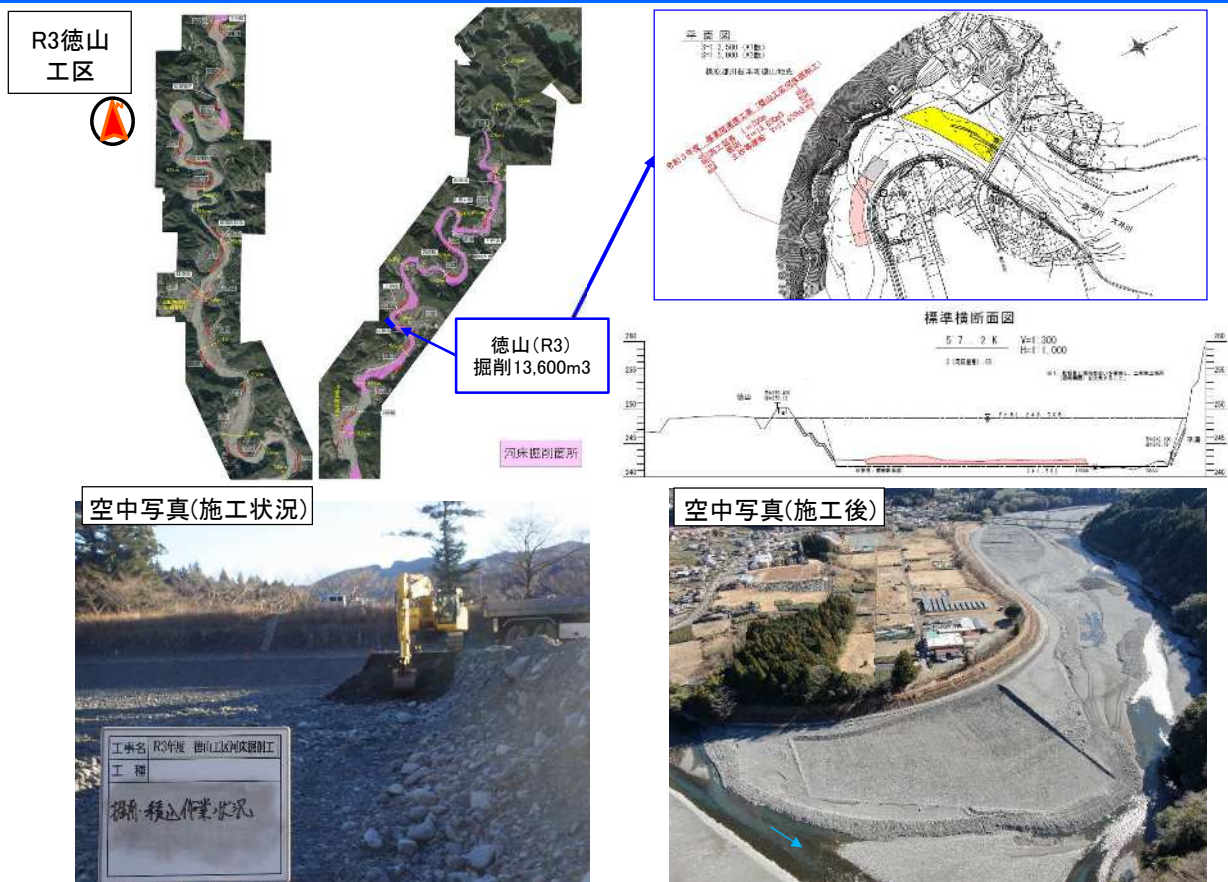
6

## 5. 事業の進捗状況（現在の取り組み）



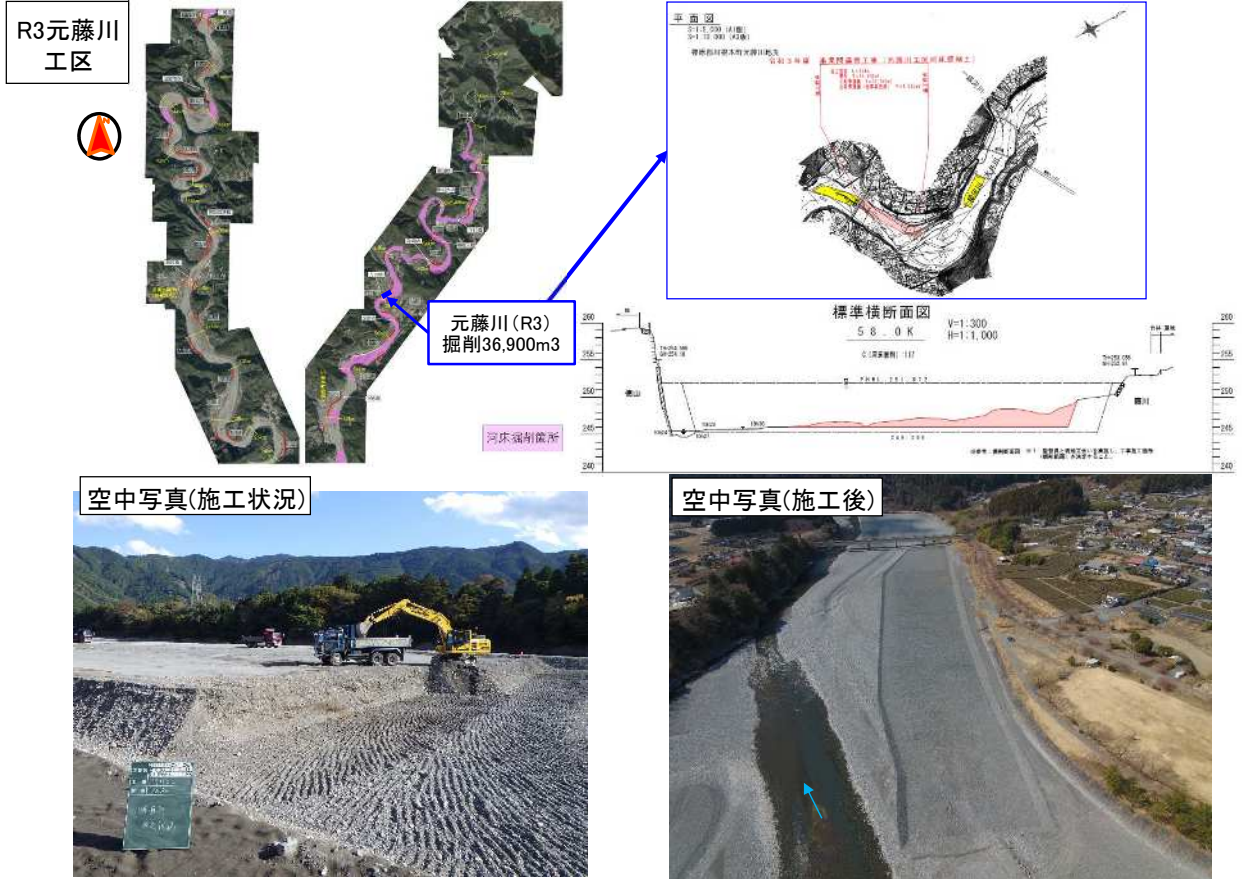
7

## 5. 事業の進捗状況（現在の取り組み）



8

## 5. 事業の進捗状況（現在の取り組み）



9

## 5. 事業の進捗状況（現在の取り組み）



10

## 5. 事業の進捗状況（現在の取り組み）

R4補・R5  
徳山樋門



徳山樋門  
(R4補・R5)

【令和4年度補正】  
事業内容：河道掘削工

【令和5年度当初】  
事業内容：樋門工、築堤工、護岸工

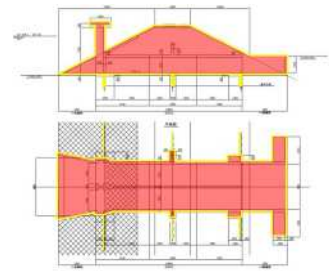
空中写真(R4補掘削・施工前)



空中写真(R4補掘削施工後)



R5築堤・樋門完成イメージ

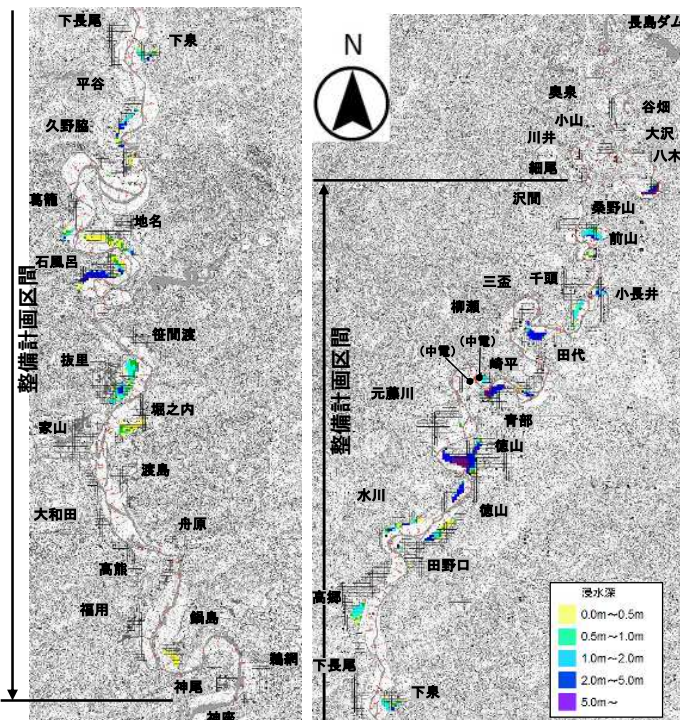


11

## 6. 対応方針(案)を決定した根拠等 【視点1(2)】事業の効果

### 【整備目標規模(5年に1回の降雨)洪水による氾濫シミュレーション結果】

中流七曲りブロックにおける浸水想定区域図(現況河道 年超過確率1/5規模)



単位(億円)【合計】			
流量規模	直接被害額 合計	間接被害額 合計	合計
w=1/5	95.58	4.25	99.84

※出典:H30 中部地整認可申請(H31.3) 参考資料(治水対策編)より抜粋

1/5規模洪水  
に対応の整備  
により被害が  
解消される

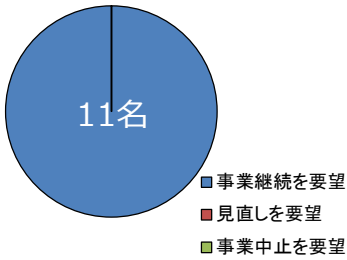
12



## 【視点2】今後の事業の進捗の見込み（地元意見）

### 【主な意見】

### 【事業継続の要望】



アンケート調査結果(令和5年3月)  
(沿川自治会の関係者 計11名)

事業(特に河床掘削)への地域住民の期待は大きい

### ○土砂堆積への懸念、堆積土砂撤去の要望

- ・ 土砂堆積により水位が上昇しているため、令和4年台風15号のような集中的な雨が連続すると洪水になり、多大な被害を起こす可能性がある。
- ・ 千頭駅前が以前浸水したことがあり、河床が下がることを希望する。
- ・ 堆積砂利の撤去を要望する。(南小学校前、川根大橋付近、両国前(千頭側))
- ・ 河床の上昇が進んでしまい河川氾濫の危険がある。
- ・ 河川の氾濫防止のためにも、河床掘削や築堤は積極的に実施してほしい。
- ・ 河原土砂が堆積し続けており、今後も河床掘削をお願いしたい。
- ・ 支流の多い地区であり、台風や大雨時の増水量も多く、河床も上昇している状態だと思う。掘削及び護岸の整備は是非お願いしたい。
- ・ 徳山地区の浅間神社～大岩あたりの大井川に砂利堆積が目立つため、河床掘削をお願いしたい。

### ○観光地への配慮について

- ・ 観光地でもあり、景観を損ねる築堤はなるべく避けていただきたい。

### ○事業内容の説明について

- ・ 事業の詳細内容の説明を実施してほしい。

### ○工事車両の通行について

- ・ 工事車両の通行順路については、地元の意見を反映してほしい。

13

## 【視点3】新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 民間業者の砂利採取と協力した河床掘削の実施や、掘削土を他事業の盛土材へ活用するなど、引き続きコスト縮減に努めていく。



多事業の盛土材等へ転用

14

## 対応方針（案）

- 本事業は、大井川中流域の治水安全度を向上させ、浸水被害の解消を図るものである。
- 流下能力が低く、整備効果（流下能力の向上）が高い区間より優先的に河床掘削を進めており、流下能力は向上している。
- 費用対効果も十分見込まれる。
- 地元の期待も大きく、協力的であり、今後の事業の進捗が見込める。
- 令和7年度までの事業予算が確保される見通しであり、引き続き河川改修の計画的な進捗により、令和30年度までに完成する見込みである。
- 地域の安全・安心に寄与することから、事業を継続して早期完成を図る。
- 近年の激化する豪雨に対しては、流域のあらゆる関係者で取り組む「流域治水」の考えに基づき、根幹となる河川整備は確実に進める必要がある。



浸水被害を解消するため、**事業継続**とする。